

インディアナ日本語学校便り だいごう 第4号

令和5年5月20日事務所 317-255-1631 メール ijls@indiana-j-school.net

(HP) <http://www.indiana-j-school.net>

校長 森 勝義

Happy Mother's Day ～お母さんに感謝の気持ちを伝える日～

こうちよう もり かつよし
校長 森 勝義

アメリカで母の日は「Mother's Day」と呼ばれ、日本と同じく毎年5月の第2日曜日に祝われます。今年の母の日は、5月14日でした。園児、児童生徒のみなさん、毎日家族のために頑張っているお母さんへ感謝の気持ちを伝えたいでしょうか。

諸説ありますが、このように世界中で記念日となっている「母の日」はアメリカが発祥の地だと言われています。1907年に遡り、その年の5月12日にアン・ジャービスという女性が、亡くなったお母さんを偲び、ウエストバージニア州の教会で追悼会を開き、その際お母さんが好きだったしろいカーネーションを贈ったことが始まりとされています。その後も、「自分の母親だけでなく全ての母親が感謝されるべきだ」という彼女の考えと働きかけがアメリカ全土に広がり、1914年に「母の日」がアメリカの記念日として制定されたそうです。

日本でも赤やピンク、黄色などのカーネーションを母の日に贈りますが、前述のように白いカーネーションは、既に亡くなられたお母さんへの贈り物としてアメリカではよく知られています。

皆さんはどんな贈り物をお母さんにあげたでしょうか。「お手伝いクーポン券」や「マッサージ券」「お掃除お手伝い券」などを自分で作ってお母さんにプレゼントした人もたくさんいたことでしょう。渡しそびれてしまった人は、今からでも全然大丈夫です。子どもにとって「母の日」は「お母さんが私のことをいつも想ってくれているように、私もお母さんのことをいつも想っているから」と、伝えられる良い機会です。その気持ちが伝わりさえすれば、どんなプレゼントだったとしても、また、プレゼントでなく言葉だけだったとしてもお母さんはきっと喜んでくれると思います。私のように“感謝の気持ち”が“後悔の念”で塗りつぶされる前に、その想いをしっかりと伝えて下さい。そして、母の日だけでなく、毎日、この感謝の気持ちを忘れずにカードに書いて渡すのもいいですね。



私が初めて「帰り道」を読んだ時、二つの考えが頭をよぎった。自分は完全に周也側の人間だなと思ったことと、1と2の場面の表現の仕方だ。

周也とは重なるところがおどろくほど多いのに、律の気持ちは分かりづらかった。もし私が周也の立場だったら、私は周也と同じ気持ちになるだろう。でも時には周也のような気持ちにもなる。私がアメリカに来て初の登校日、女子生徒の何人かは、温かく迎えてくれた。「何色が好き。」「何色が好き。」「どんな動物がすき。」「食べ物なら何がすき。」どれも単純な質問だ。日本語ならそく答だっただろう。でもその時の私は、ほとんど英語を知らなかった。誰かが笑顔で質問してくる中、私は作り笑いをうかべて、首を横にかたむけるのがほとんどだった。いつもおしゃべりな私もその時はきまずくて、一人になりたかった。それを思い出すと、律の気持ちは分かる気がする。

周也と律が同じことを思う時、表現がびみょうに違うことが興味深かった。特に心に残ったのは、1の場面の最後、「ぬれた地面にさっきよりも軽快な足音をきざんで、ぼくたちはまた歩き出した」と2の場面の最後、「しめった土のにおいがただようトンネルを律と並んで再び歩き出しながら」というところだ。この2つはおそらく同じシーンを表現しているが、律は、「ぬれた地面。」周也は、「しめった土のにおいがただよう」と表現していて、確かにどちらも同じ状況を表現しているが、同じ言葉を一つも使っていない所が面白かった。

私はこの物語を通して、これからは律のような友達ができて、ピンポン玉を乱打せず、よい質問をして、ゆっくりと友情を深めていこうと思った。また今後、文章を書く時には、今回の作品を参考にし、違う視点からかいてみたり色々な表現を使ったりしたらいいなと思った。

青木千夏

私は「帰り道」を読んで、言葉はとても大切なのだなと思った。言葉は、相手の気持ちを考えながら言わなければならない。すぐに言葉の整理ができずに、ポンポンをいろんなことを初めの周也のように言ってしまうこともある。話したいことがたくさんあり、次々に話を変えてしまう。逆に律のように、ゆっくりじっくり考えてから言うこともある。例えば教科書19～20ページのようなときには、どちらも良い点があり選ぶのが大変だ。私はどちらかというと、律にも周也にも似ているような気がする。このように困ってしまう点は律に似ているのかもしれない。

「帰り道」で二人が無言で歩く場面がある。そんな時、私は言葉をかけるのがむずかしいだろう。しかしこの物語では、天気雨が降った。この天気雨は明るく自分のいやなことをすべて水に流してしまおうという意味だと思う。この天気雨のおかげで、周也と律はまた仲良くなることができた。この物語を1と2の構成で分けることによって、周也と律のそれぞれの気持ちを読み取ることができる。お互い自分の思っていることができなくて、無言になってしまう。その間の二人の複雑な思いなどもある。そしてそれを克服した後の思いなども読み取ることができる。このように周也と律それぞれの視点に分けることにより、二人の気持ちを読み取ることができる。

この物語は、筆者が何を読者に伝えたいのか、とても分かりやすく書かれている。

※駐車場改修工事に伴うドロップオフ・ピックアップ運用変更のお知らせ

借用校オーチャード校は5月25日（木）に卒業式を迎え、翌26日から正門前駐車場の全面工事を予定しています。本工事は5月27日（土）、6月3日（土）の授業日に影響します。

この2日間の登下校時ドロップオフ・ピックアップは西門から敷地に入り、中学部ドアを児童生徒出入口として使用していただきます。詳細は別紙にて後日連絡いたしますので、ご確認いただき、ご対応お願いいたします。

なお、引き続き保護者の皆様の校内立ち入りは禁止されています。ご不便をおかけしますが、ご理解ご協力、よろしくお願いいたします。